

「事業名：「復興知」の総合化による食・農・ふくしま未来学の展開」

令和3年度補助事業の実績・成果

福島大学 連携市町村：南相馬市、川内村、大熊町、飯舘村

連携市町村との協定締結日：平成18年11月29日他 現地拠点：飯舘村飯樋字笠石140-1いいたて結い農園

事業のポイント

浜通りおよび福島県地域においてイノベーションを生み出す高度で加速度的な復興に寄与する人材の育成を目指し、「復興知」事業、「地(知)の拠点整備事業」(文部科学省COC事業)、地域実践特修プログラムを発展させて以下の取り組みを展開する。

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究
2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

福島大学と浜通り連携市町村の交流人数(延べ)

	福島大学		小中高生	現地 社会人
	学生	教職員		
現地	501	129	586	59
オンライン	107	80	-	72
合計	608	209	586	131

今年度の活動実績

延べ学生608名、教職員209名、小中高生586名、現地社会人131名が参加

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

- ①いいたて結い農園での栽培試験(6月16日～10月19日まで)：成果は教育プログラムの開発に寄与
- ②浜通り産炊飯米、蓄積構造解析と、米提供農家を対象に食味概要等の報告を実施
- ③「福島フォーラム」を、3回実施し、延べ122名の参加を得て、福島大学の研究成果を現地社会人等に教授
- ④福島大学食農学類が有する「復興知」をもとに、模擬授業を2回実施、延べ120名の児童が参加

2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

- ①フィールドワーク(FW)・サービスマーケティング科目「むらの大学」で28回のFWを実施、延べ学生295名が参加
- ②「自主学修プログラム」(「むらの大学」関連)で14回のFWを実施、延べ72名の学生が参加
- ③浜通り地域をめぐるスタディツアー「みらいバス」は、7回実施、延べ94名の学生が参加
- ④学類を超えたプロジェクト学修には、4件のプロジェクトに45名の学生が参加

3. 大熊町分科会シンポジウムの開催

大熊町で公開シンポジウムでは、営農再開・農地保全・極端な担い手不足について解決策の提案

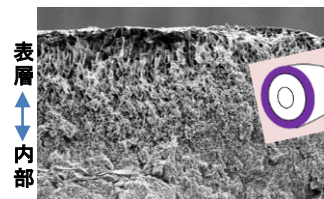
今年度の成果

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

今年度は、作物のセシウム吸収機構、いいたて結い農園でのバイオ肥料の有効性試験、農業復興に係るニーズ等を中心に検討を行った。これらの成果は、大学・大学院教育プログラム構築の基盤の一部として活用され、「学類を超えたプロジェクト学修：除染後農地の肥沃度低下を回復を考える」は本取組を基盤に実施した。

2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

今年度は、大熊町での活動開始、学類を超えたプロジェクト学修の新設、YouTubeによる動画公開など活動の拡充に取り組んだ。原町高校での探究活動指導やフィールドワーク・サービスマーケティング科目「むらの大学」現地報告会などの現地活動では、地域住民等との交流を積極的に実施した。



表層では(紫色部)、表面の緻密な構造(おねば層)は比較的薄く、あっさりとしたねばりもたらず。内部には多孔質構造が発達し、弾力をもたらす。



自主学修プログラム
「学修成果物」



大熊町分科会を
「公開シンポジウム」として開催